

令和3年1月28日

湖西市長 影山 剛士 様

湖西市総合計画審議会

会長 池上重弘

湖西市総合計画の策定について（答申）

令和元年11月11日付湖企画第145号にて諮問のあった事項について審議したので、次のとおり答申する。

【諮問事項】

- (1) 基本構想に関する事
- (2) 基本構想に基づく基本計画の策定に関する事

記

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、人々の生活、働き方、価値観などが大きく変わろうとしている。社会の動向や市民の需要をしっかりと把握し、どこに力を入れて、どこかの力を抑えるか優先順位を付け、施策の着実な実行に努められたい。なお、施策の進行管理に当たっては、成果指標の達成度を示すKPIを設定されたい。

また、先進自治体の取組や成果を分析し、有効な取組は積極的に市政に反映されたい。

2 まちの将来像について

まちの将来像を示すキャッチフレーズについて、本市の外国人比率が高いという特徴、生まれ育った子ども達が戻ってきたくなくなるようなまちであることを踏まえ『「ひと・自然・業（わざ）」がつながり 未来へ続く わがまちKOSAI』を原案として提示する。

3 人口減少対策について

本市の持続可能な発展のため、現状推移から人口の目標を設定し、少しでも減少幅を緩和されたい。

本市においても少子化や若い世代の転出が目に見えて顕著になっている。昼夜間人

口差の解消に向けた施策を実行するとともに、若い世代が進学や就職で湖西市を離れても、暮らしやすいまちづくり、若い世代が魅力を感じるまちづくりを進めることにより、戻ってきたいと思う湖西市にする必要がある。施策の実施に当たっては、市民の考えと乖離していないか、成果につながっているか、しっかりと分析を行い、特に空き家の利活用や土地利用の促進などを重点を置いて実行されたい。

市内の出産環境は、若い夫婦の定住にとって重要なポイントである。市内に産科ができ、より近くで出産できることが望まれるが、近隣自治体の設備の整った大きな病院で安心して出産できる体制も望まれる。こうした病院との連携体制を構築されたい。

さらに、こどもを育てる環境は子育て世代の定住にとって重要なポイントである。小中学校の教育環境、特に校舎の老朽化対策を計画的に実行されたい。

移住定住の地として選ばれる決め手は、千差万別であるが、湖西市だからこその決め手を見定め、PRに努められたい。

4 超高齢社会への適応について

今後、少子化が進む一方、高齢者が増えていくと想定され、超高齢社会に適応することは今回の計画の大きなテーマである。市民がいつまでも自立した生活ができるよう、自身の健康への意識付けを行うことが何よりも大切となる。職住近接だけでなく、健康寿命の延伸や地域医療の満足度を高める施策を展開されたい。

また、公共交通については、需要をしっかりと分析し、様々な手段を組み合わせ、最適な公共交通の構築を目指されたい。

5 産業について

生産年齢人口の減少により、労働者不足や人材不足が課題となっている。モノづくりのまち、豊田佐吉翁生誕のまちとしての地域ブランドを確立させ、人材育成を行うことが重要となる。子どもたちがモノづくりにいかに興味を持ってもらうか、産業を支える人材をどう育成し確保していくか、オール湖西で取り組まれたい。

また、モノづくり産業だけでなく、農業や漁業、観光業についても現状分析のうえ、振興施策について取り組まれたい。